

mitsuba



挑戦の姿勢が未来をつかむ

～株式会社ミツバでの学びの記録～

令和7年度 長期社会体験研修員 上林 知広

【研修先企業：株式会社ミツバ】

研修先企業について

企業概要

名称：株式会社ミツバ (MITSUBA Corporation)

設立：1946年3月8日

資本金：50億円

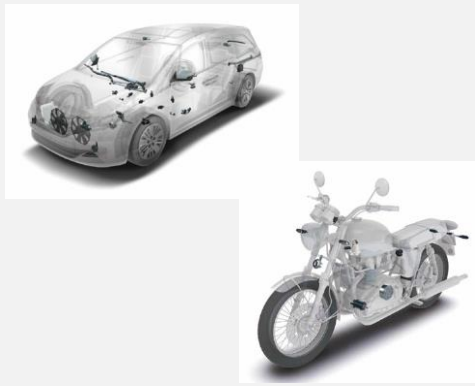
売上高：1,654億円 (2025年3月時点)

従業員数：3,270名

ミツバグループ：44社 (国内13社、海外31社)

連結売上：3,441億円 (2025年3月時点)

連結従業員数：21,887名



年間研修計画

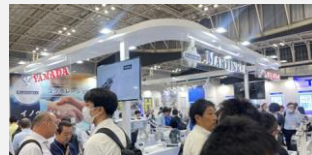
4月	<ul style="list-style-type: none">・入社式・新入社員研修
5月	<ul style="list-style-type: none">・技能五輪選手選考
6月	<ul style="list-style-type: none">・階層別教育・企業合同説明会・視察 (人と車のテクノロジー展・東海大学ソーラーカーチーム)
7月	<ul style="list-style-type: none">・生産実習 (新里工場)・オープンカンパニー
8月	<ul style="list-style-type: none">・新入社員研修
9月	<ul style="list-style-type: none">・技能実習生集合研修 講義・階層別教育・採用実務
10月	<ul style="list-style-type: none">・採用実務
11月	<ul style="list-style-type: none">・キャリア研修・階層別教育
12月	<ul style="list-style-type: none">・技能五輪・製造技術実習 (新里工場)
1月	<ul style="list-style-type: none">・採用実務
2月	<ul style="list-style-type: none">・生産技術研修・設計実験研修
学校教育との関わり等	新入社員の育成や高卒社員のキャリア形成の実態を現場を体験するとともに、企業におけるキャリア教育の取組を学ぶ。さらに、採用実務を通して企業の視点を理解し、製造業のものづくりを実際に経験することで知識や技能を共有していく。これらの活動を通じて、生徒が「働くこと」に対する認知・理解・共感を深める。

主な研修内容(4月～6月)



4月 新入社員研修

4月1日の入社式に参加し、初日から1ヶ月間の研修プログラムを受講した。新入社員研修を通じて、変化に対応する柔軟性と、変わらず守るべき基礎・基本の両方を学んだ。また、昨今の自動車業界が自動運転やモビリティサービスの拡大といった大変革期にあることと、変化を先読みする視点の重要性を認識することができた。



5月 業界視察

「人と車のテクノロジー展」の視察や技能五輪実習の経験を通じて、技術力向上の重要性や技術の転換期にある業界の現状を身近に感じることができた。特に、自動車産業は従来の技術を守りつつも電動化や自動運転といった新しい知識やスキルを積極的に取り入れていく必要があると強く実感した。技術革新と人づくりの両輪があってこそ組織や社会の発展が実現するのだと気付いた。



6月 高校・大学訪問

生徒の引率として参加したことがある高校生向け進路相談会に、企業側の立場で参加した。教員とは異なる視点から生徒の進路選択に関わることで、企業が求める人材像と学校教育との接点を考える機会となった。また、東海大学「Bridgestone World Solar Challenger 参戦体制発表会」では、学生の技術への取組を間近で見学し、教育現場と企業の連携の大切さを実感した。



振り返り

4月から6月の研修では、自動車業界が大きな転換期にある中で、変化に対応する柔軟性と技術力を絶えず向上させることの重要性を強く感じた。

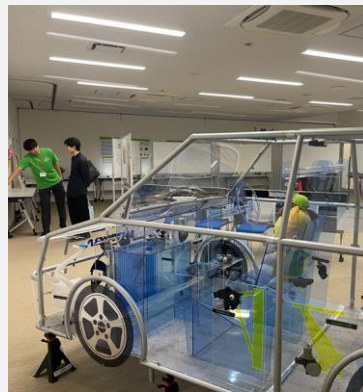
また、進路相談会に企業側の立場で参加した経験から、企業が求める人材像を改めて理解できた。学校教育と産業界が連携して次世代を育成することの必要性を強く感じた。この研修での学びが、その後の企業研修に臨む上での基盤となった。

主な研修内容(7月～9月)



7月 生産実習

新里工場5課にて、パワーウィンドウモーターの生産ラインで1ヶ月間の実習を行った。生産実習を体験し、頭で理解していても体は思うように動かず、体力の重要性を認識した。現場で高卒新人を指導する社員の生の意見を聞き、コミュニケーションの重要性や教育の難しさややりがいを考える機会となった。エンドユーザーの安心と信頼につながることを意識し、技術者倫理の重要性を学んだ。



8月 オープンカンパニー

オープンカンパニーは、ミツバ・両毛システムズ両社の新入社員教育の一環として、高校生や大学生にキャリアを考えるきっかけを提供することをねらいとして実施された。企業活動をモチーフにしたすごろくや職場疑似体験などのプログラムを運営し、来場者が企業での働き方を知る場づくりに携わった。この経験を通じて、企業が次世代の人材育成に積極的に取り組む姿勢を間近で学ぶことができた。



9月 採用業務

高校生の採用業務に携わり、企業側の視点で採用試験を実施した。入社希望者が緊張した様子で面接に臨む姿を間近で見ることができ、緊張感を直接感じる貴重な経験となった。普段とは異なる立場で物事を考える重要性や、採用活動に伴う準備や判断の難しさ、そして企業として求める人物像を理解することの大切さを改めて自覚した。



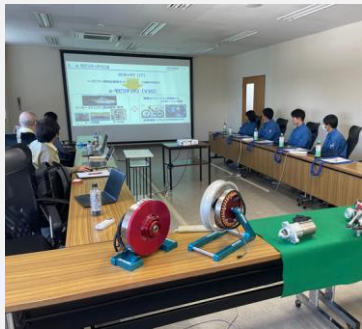
振り返り

工場での生産実習や改善活動を通じて、作業効率向上や技術者倫理の重要性を学んだ。新入社員研修では企画の立案・実行を経験し、主体性や問題解決力、対話による合意形成の重要性を学んだ。また、配属式や高校生向け会社紹介、採用業務、ベトナム人技能実習生への日本語講義を通して、人材育成には信頼関係を築くコミュニケーションが不可欠であると改めて認識した。



主な研修内容(10月～12月)

10月 技術交流会



企業との技術交流は、生徒に学校での学びと現場とのつながりを具体的に実感させる機会となった。交流会では、エネルギーマネジメントの視点や簡易的なモーター特性の測定方法を取り入れ、理論と実践を結び付けながら技術理解を深めた。さらに、高校生が製作した実車に企業の方に試乗していただき、性能や安全性、改善点について専門的な意見や助言を得ることができた。

11月 授業実践



「不測の事態や例外的な状況を前向きに捉え、目標達成に向けて粘り強く挑戦する姿勢を育む」ことをねらいとした。その手立てとして、銅線曲げやクリップ製作で計測と改善を繰り返し、生産性向上を体験的に学んだ。さらに、IEの視点や意図的なイレギュラーを取り入れ、生徒は変化への対応力と品質を守る責任を実感することができた。振り返りを通して行動を調整する力を養い、自己管理能力の育成につなげた。

12月 製造管理実習



新里工場製造管理課において1ヶ月間の実習を行った。ライン移管業務やロボット製作を通して、現場で求められる実践的技術力の重要性を認識した。また、生徒の学びを支えるには教員自身の専門性向上が不可欠であることを再確認するとともに、工業高校出身者の活躍から、図面作成や機械加工、シーケンス制御が将来の職務に結び付く姿をより具体的に描けるようになった。

振り返り



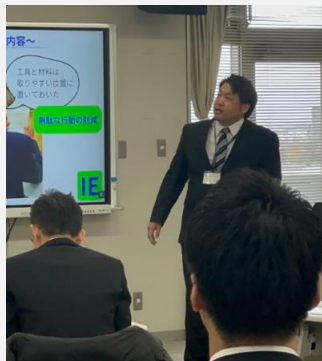
企業との技術交流や製造管理実習、IEを取り入れた実践を通して、学びを実社会と結び付ける重要性を実感した。改善や試行錯誤の経験は、技術力だけでなく前向きに考える力や忍耐力等の自己管理能力の育成にもつながる。また、企業で活躍する姿は、生徒が将来像を具体的に描く上で大きな意義があり、キャリア教育の充実に不可欠であると学んだ。

主な研修内容(1月～2月)



1月 MEE活動

MEEは(ミツバデンキ・エラー・エリミネーション)の略で、旧三ツ葉電気時代から続いている、ミスの排除を目的とする事業改善活動である。組織的に課題解決を図る姿勢と、高卒内定者を大切に育てようとする企業の思いを実感した。そこから、学校での学びを実社会の役割や責任と結び付け、働くことの意義や求められる力を具体化するキャリア教育の重要性を認識した。



2月 1年間の実践発表

ミツバでの研修成果およびキャリア教育の実践内容について、教育フェスタにおいて発表を行った。発表の機会を通して、この一年間の取組を客観的に振り返ることができ、自身の成長や実践の意義を再認識することができた。

また、多くの参加者に対して研修の取組とその成果を広く共有することができた。

～1年間のまとめ～



本研修を通して、企業が求める人材像や育成の在り方、最先端の製造技術について実践的に学ぶことができた。特に、コミュニケーション力や学び続ける意欲、変化を前向きに捉え挑戦し続ける姿勢の重要性を強く実感した。また、組織として情報共有を徹底し、改善を積み重ねていく企業の姿勢から、多くの示唆を得た。さらに、採用活動や人材育成の現場を経験したことで、学校教育と社会との接続を具体的に捉える視点が養われた。これにより、進路指導においても、より現実的で説得力のある助言が可能になると感じている。

今後は、本研修で得た知見を教科指導や学校運営にも還元し、組織の一員として主体的に改善に取り組んでいきたい。そして、生徒が社会の変化に柔軟に対応しながら、自らの可能性に挑戦できる力を育成していきたい。



センター研修と授業実践

センター研修

8月 キャリア教育研修

キャリア教育の意義と背景について理解を深めることができました。その上で、基礎的・汎用的能力をどのように伸ばし続けるかという視点から授業実践を見直した。



9月 研修先以外の企業訪問研修

株式会社IHIエアロスペースの見学を通して、最先端技術は「専門性」と「責任感」をもつ人材によって支えられていると感じた。自分の役割に誇りを持つ姿勢の大切さを学んだ。



10月 研究協力校の授業実践検討会

企業研修で得た学びを基に、生徒の実態に合わせて授業を再構成した。検討会での助言を生かして改善を重ね、実践当日は手応えのある授業を行うことができた。

キャリア教育実践について

ねらい

不測の事態や例外的な状況を前向きに捉え、目標達成に向けて粘り強く挑戦し続ける姿勢を育む。

研究協力校での授業実践

対象：第2学年（電子機械科）

特別活動

変化を前向きに捉える“挑戦の姿勢”が未来をつかむ

ねらい

不測の事態や例外的な状況を前向きに捉え、目標達成に向けて粘り強く挑戦し続ける姿勢を育む。

授業の流れ・様子

キャリア教育実践について ～授業の内容～

- ① 本時の学習目標をつかむ
- ② 針金曲げ実践・IEの理解
- ③ クリップの生産
- ④ 改善活動
- ⑤ イレギュラーオペレーション
- ⑥ 振り返り

IE

自己管理能力



針金曲げ実践の説明



針金曲げ実践



改善活動の様子

振り返り

- ・感情を整え、柔軟に行動を切り替えて挑戦を続ける姿勢が生まれた。
- ・生まれた姿勢を安定した力へ高めることが課題である。